

大学における起業家育成プログラムの新展開

○杉岡 秀紀（福知山公立大学）

1. はじめに

少子化、高齢化が進展するこんにち、洋の東西を問わず、どの地域においても地域の持続可能性をどう担保するのが喫緊の課題となっている。とりわけ、多様化・複雑化・不確実化・高度化・専門化する VUCA 時代の到来を受け、地域の課題解決に挑み、新たな価値の創出に挑戦する起業家（アントレプレナー・イントレプレナー）の人財育成が不可欠である。

筆者が居住する福知山市では、京都府北部唯一の4年制大学である福知山公立大学が中心となり、産業界との連携の下、2021年度から産学公連携による起業家育成と地域づくりのための事業「NEXT産業創造プログラム」を展開している。本報告では本事業の概要と新しい展開について概説する。

2. NEXT産業創造プログラムの概要

NEXT産業創造プログラムは、福知山市、産業界との連携体制の下、地域課題をテーマに受講者が企業に必要とされる地域やスキルを短期間で習得するとともに、実際にクラウドファンディングを通して、ビジネスモデルの試行する実践型のプログラムである。主催は福知山市であるが、福知山公立大学（北近畿地域連携機構）が受託し、産業界（商工会議所、産業創造センター）と連携しつつ、産学公連携の下、プログラムを展開している。

カリキュラムは、毎年少しずつ変化しているが、現在は、①必修科目1～2科目（地域経営特論。社会人の方はビジネスエッセンシャルズ）、②選択必修2科目（ストラテジックマーケティング、地域マネジメント&ファイナンス、イノベーション特論、起業>コモングラウンド>AIの中から2科目）、③ケーススタディ科目（実践事業デザイン特論）、④PBL科目（実践事業創造特論）の計8科目を準備し、公立大学の教員はもとより、専門的知見を持つ外部講師にも担当頂いている。また1科目は8コマ(12時間)からなり、通常の大学の講義よりコンパクトに設計している。（図1）。

図1 NEXT産業創造プログラムの開講科目

科目群	備考	種別		
		必修	選択必修	選択
基礎科目(地域経営特論)		○	—	—
基礎科目(ビジネスエッセンシャルズ)	社会人限定	○	—	—
基礎科目群(地域経営特論、ビジネスエッセンシャルズ以外)	4科目から選択	—	2科目	○
事例研究型科目(実践事業デザイン特論)		○	—	—
PBL型科目(実践事業創造特論)		○	—	—

（出所）福知山公立大学北近畿地域連携機構(2024)

1科目は1万円（学生は5千円）であり、修了要件は基礎科目の必修科目1科目（社会人は2科目）、選択必修2科目、事例研究科目1科目、PBL科目1科目の5科目（社会人は6科目）で12時間×5＝60時間と設定している。募集定員は15名であるが、毎年定員以上の申込があり、おおむね20人前後が参加している。

なお、プログラムについては基本的に全科目でアンケート調査を実施すると共に、プログラム全体についてもアンケート調査を実施している。結論から言えば、科目については図2の通り、最低で4.3、最高で4.9、平均4.75と概ね高評価となっている。

図2 NEXT産業創造プログラムの履修者数、授業評価、合格者

科目名	履修者数	授業評価	合格者	科目名	履修者数	授業評価	合格者
地域経営特論	20	4.8	20	イノベーション特論	12	4.9	12
ビジネスエッセンシャルズ	3	4.3	3	起業>コモングラウンド>AI	16	4.8	16
ストラテジックマーケティング	4	4.8	4	実践事業デザイン特論	20	—	20
地域マネジメント&ファイナンス	8	4.9	8	実践事業創造特論	20	—	20

（出所）福知山公立大学北近畿地域連携機構(2024)

次にプログラム全体の満足度については、図3の通り、満足度、起業貢献度、修了自慢度、知人推薦度という4つの指標を取っているが、いずれも満点に近い評価となった。

図3 NEXT産業創造プログラム全体の満足度

	評価平均	回答者数	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
満足度	5.0	20	19	1	0	0	0
起業貢献度	5.0	20	19	1	0	0	0
修了自慢度	5.0	20	20	0	0	0	0
知人推薦度	4.7	20	14	5	1	0	0

(出所) 福知山公立大学北近畿地域連携機構(2024)

何よりの成果は事業化の実績である。結論から言えば、2023年度は受講生による事業創出案が5件創出された(図4)。また、5件のうち、企業内起業が4件という結果となった。なお、5件のうちの1件はクラウドファンディングに成功し、65万円の資金を調達した。

図4 2023年度NEXT産業創造プログラムから生まれた新事業



(出所) 福知山公立大学北近畿地域連携機構(2024)

3. 考察

それでは、なぜこれほどの高い満足度を得られ、毎年定員を超える応募があるのか。筆者大きく3点要因があると考えている。1つはメンバーの多様性である。具体的には20名のうち過半は大学生が占めるが、残りは社会人となっている。このビジネス予備軍とビジネスマンのバランスが様々な場で新たな化学反応を生んでおり、そのコミュニケーションの満足度が全体の満足度に繋がっているのではと推察する。2つはハイブリット運営である。本プログラムは基本オンラインで受講できるようにしている。一方、ワークショップなどではリアル性を重視している。このバランスが参加者の満足度に繋がっているのではと見ている。3つは都市と地方の連携である。具体的には、2022年度からは渋谷QWSと提携し、年2回東京でプレゼンをするなど、都市にビジネスアイディアを売り込む機会を作っている。この「都市も地方も」という切り口が受講者の満足度に繋がっているのではと感じている。

4. プログラムの新展開

このように運営してきたNEXT産業創造プログラムであるが、今年度から新しい取り組みを始めた。それは過去の受講者、すなわち本プログラムを修了しビジネスの事業拡大支援を行うという新たな枠組みである(事業名は「スタートアップ起業家支援業務 F-Start UP」)。もとより、こうした伴走を大学教育の傍らで教員が行うには限界がある。そのため、伴走支援のためのコンサル企業を公募し、審査の結果、今年度は株式会社ロフトワークに委託することとした。また、支援を受けたい企業も修了者の中から公募し、今年度は、株式会社Lifexia、株式会社大一設備飲食事業部 D1cafe、株式会社Seasonの3社を支援することとした。この新しい取り組みがどのような結果や成果を生み出すのか、現時点はまだ不明であるが、産学公連携による新しい起業家支援プログラムとして、注目いただきたい。

【参考文献】

- 1) 福知山公立大学北近畿地域連携機構(2022)『令和3(2021)年度NEXT産業創造プログラム事業成果報告書』
- 2) 福知山公立大学北近畿地域連携機構(2023)『令和4(2022)年度NEXT産業創造プログラム事業成果報告書』
- 3) 福知山公立大学北近畿地域連携機構(2024)『令和5(2023)年度NEXT産業創造プログラム事業成果報告書』